

みなさん、おはようございます。2学期の終業式もコロナ感染を配慮して放送で行うことになりました。2学期は学校行事も多く、活気あふれる学期のはずでした。東京オリンピック、パラリンピックで日本全体が盛り上がるはずでした。今、第3波が都会を中心に猛威を振るい、その勢いは増すばかりです。そんな中、明るいニュースは、ワクチンの開発が進んでいるという報道です。諸外国では、随時、認可申請が行われています。ワクチンについては、若干の心配もあります。が、いい傾向にあることは間違いありません。諸外国の状況を見ながら、日本も実施に踏み込んでいくものと思います。

一日も早い収束を願うばかりです。

さて、今日は、この暗いご時世なので、明るい話、元気が出る話をしようと思ひ、ネタ探しをしていたところ、明石家さんまさんに関する記事に出会いました。

「これであなたもネアカになれる」という記事に、このように書かれていたので、読んでみます。

クラスに「私はネクラだ」と思い込んでいる生徒はさんはいないだろうか。そんな生徒さんには次の話を是非してほしい。

好感度男性ナンバーワンを何年も維持してきた明石家さんまさん、実はネクラの典型だったというから驚く。小学校時代のさんまさんは「勉強は苦手」「運動もそこそこ」「歌は音痴」という三重苦の中で、完全なネクラ人間になっていた。何をやってもパットせず、まるでコンプレックスの塊。しかし、心の中では「何でもいいから目立ちたい、一番になりたい」と願ひ続けていたという。そんなさんまさんにチャンスが巡ってきたのは、小学校の4年の時のクラス誕生会。友人と組んで漫才をやったのが受けに受けた。さんまさんは、一躍クラスのスターになってしまった。これで自信をつけてしまったさんまさんは別人のように活発になり、学級委員に連続して選ばれたりもした。さらに、みんなに受けるひょうきんなネタを工夫するようにもなったのである。さんまさんは「今の僕があるのは、あの誕生会のおかげです」と当時を振り返る。

この記事から学べることは、人は出会いやきっかで大きく変わることができるということと、こうなりたいという気持ちがあれば、まず実行に移すことが大切だということです。

みなさんも明石家さんまさんのようにはなれないかも知れませんが、自分ももともとこうだから無理だと思ひ込んで、自分の可能性を閉ざしているのではないのでしょうか？

本校には「未見の私の発見」という教育テーマがあります。正しく「思いを持って動くことで自分の知らない素晴らしい自分を発見することができるのではないのでしょうか。

それでは令和2年もあとわずかとなりました。令和3年こそ、コロナが収束して素晴らしい年になることを願ひ、終業式の挨拶とします。みなさん、いい年を迎えてください。